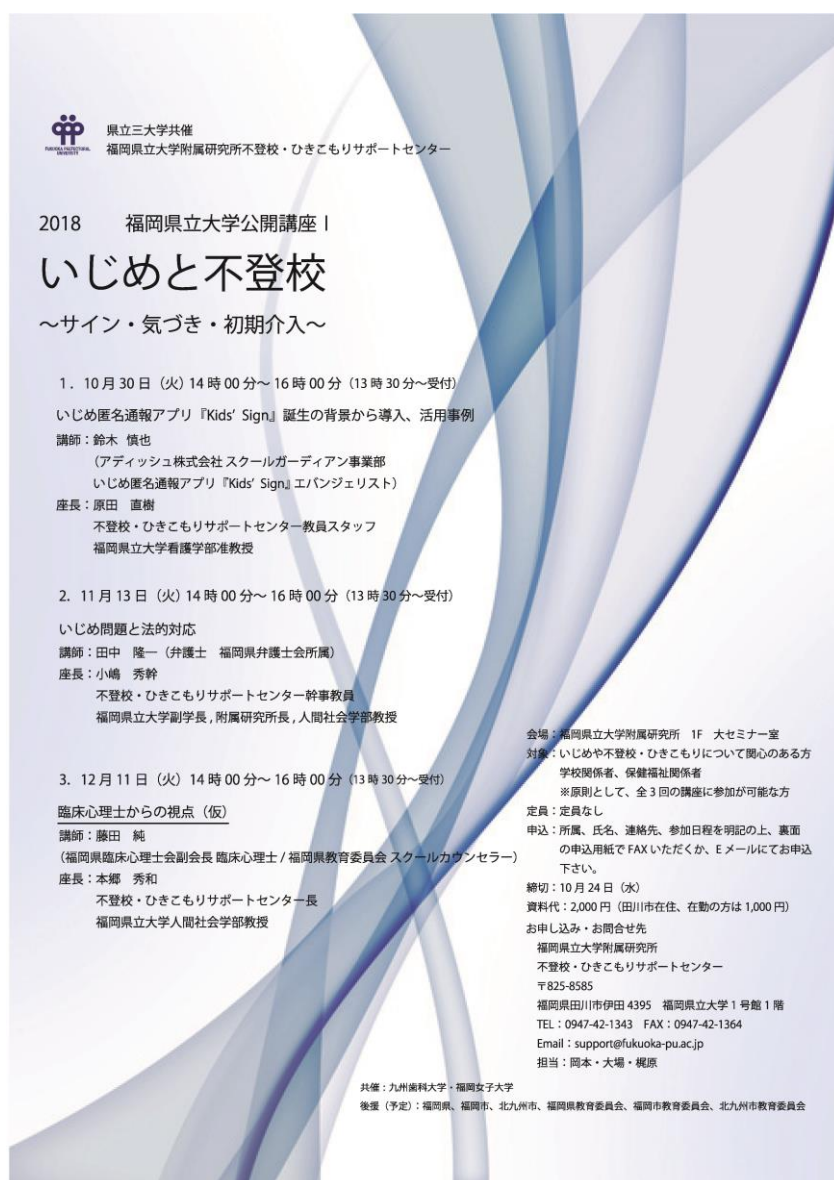



2018（平成30）年度 福岡県立大学 公開講座 I

不登校・ひきこもりサポートセンター

「いじめと不登校～サイン・気づき・初期介入～」

（全3回）



 県立三大学共催
福岡県立大学附属研究所不登校・ひきこもりサポートセンター

2018 福岡県立大学公開講座 I
いじめと不登校
～サイン・気づき・初期介入～

1. 10月30日（火）14時00分～16時00分（13時30分～受付）
いじめ匿名通報アプリ『Kids' Sign』誕生の背景から導入、活用事例
講師：鈴木 慎也
（アディッシュ株式会社 スクールガーディアン事業部
いじめ匿名通報アプリ『Kids' Sign』エバンジェリスト）
座長：原田 直樹
不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ
福岡県立大学看護学部准教授

2. 11月13日（火）14時00分～16時00分（13時30分～受付）
いじめ問題と法的対応
講師：田中 隆一（弁護士 福岡県弁護士会所属）
座長：小嶋 秀幹
不登校・ひきこもりサポートセンター幹事教員
福岡県立大学副学長，附属研究所長，人間社会学部教授

3. 12月11日（火）14時00分～16時00分（13時30分～受付）
臨床心理士からの視点（仮）
講師：藤田 純
（福岡県臨床心理士会副会長 臨床心理士 / 福岡県教育委員会 スクールカウンセラー）
座長：本郷 秀和
不登校・ひきこもりサポートセンター長
福岡県立大学人間社会学部教授

会場：福岡県立大学附属研究所 1F 大セミナー室
対象：いじめや不登校・ひきこもりについて関心のある方
学校関係者、保健福祉関係者
※原則として、全3回の講座に参加が可能な方
定員：定員なし
申込：所属、氏名、連絡先、参加日程を明記の上、裏面の申込用紙でFAXいただくか、Eメールにてお申込下さい。
締切：10月24日（水）
資料代：2,000円（田川市在住、在勤の方は1,000円）
お申し込み・お問合せ先
福岡県立大学附属研究所
不登校・ひきこもりサポートセンター
〒825-8585
福岡県田川市伊田4395 福岡県立大学1号館1階
TEL：0947-42-1343 FAX：0947-42-1364
Email：support@fukuoka-pu.ac.jp
担当：岡本・大場・梶原

共催：九州歯科大学・福岡女子大学
後援（予定）：福岡県、福岡市、北九州市、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、北九州市教育委員会

第1回

日時：平成30年10月30日（火）14：00～16：00

場所：本学附属研究所 大セミナー室

講師：鈴木慎也（アディッシュ株式会社スクールガーディアン事業部）

いじめ通報アプリ「Kids' Sign」エバンジェリスト

座長：原田直樹（不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ/本学看護学部准教授）

テーマ：いじめ匿名通報アプリ「Kids' Sign」誕生の背景から導入、活用事例

参加者：19名（うち田川市在住・在勤者2名）

講座概要：いじめ匿名通報アプリ「Kids' Sign」を開発・運用しているアディッシュ株式会社から鈴木氏を招き、同アプリの誕生の背景から、導入や活用事例について講義いただいた。スクールガーディアン事業の3本の柱①ネットパトロール②啓発活動③SNS相談・通報事業を展開するなかで、ネットリテラシー教育やICT活用教育プログラムの重要性について、冒頭ではSNSの現状やもたらす影響についての話から始まった。そして、当初のネットパトロールに始まり、ネットいじめや仲間外れといった外部から見えないところで問題は起きているため通報窓口（アプリ）の設置に至った経緯について説明が行われた。アプリの詳細な活用事例では、熊本県における本年度からの導入事例「ネットいじめ等早期対応推進事業」の中間報告について説明が行われた。熊本県では県立高校（53校）・県立中学校（3校）全校に導入されており、通報件数も他の首都圏等の自治体・学校法人での導入事例よりも多いとのことであった。これは通報のしやすさも一因であるようであった。内容はいじめに限らずあらゆる学校生活での人間関係などの悩みや不満などの通報も含まれているようであった。匿名であることの意味や意義、即時性、アプリがあることでの抑止力など多くのメリットがあることが分かった。質疑では費用についてなどが寄せられた。

講座風景：



第2回

平成30年11月13日（火）14:00～16:00

講師：田中隆一（弁護士 福岡県弁護士会所属）

座長：小嶋秀幹（不登校・ひきこもりサポートセンター幹事教員/本学人間社会学部教授）

テーマ：いじめ問題と法的対応

参加者：20名（うち田川市在住・在勤者0名）

講座概要：福岡県弁護士会子どもの権利委員会に所属される弁護士の田中隆一氏をお招きし、「いじめ問題と法的対応」をテーマに講演をいただいた。講座では平成25年のいじめ防止対策推進法の制定の背景となった平成23年の大津市中学校いじめ自殺の事例から、同法律の概要、特に学校の責任についての概要や組織づくり、実際の裁判における対応の争点について具体的に話が展開された。また、同法律に定められた加害児童生徒の責任についても言及され、加害児童生徒の保護者への責任なども講義いただいた。終始難しい法律用語も優しく詳細に講義いただいた。質疑では、先生より「いじめにおける謝罪」について提議され意見交換を行った。また、スクールロイヤーや相談費用、調査報告の説明のタイミングや留意点などの質問が寄せられ一つ一つ丁寧に回答をいただいた。

講座風景：



第3回

平成30年12月11日（火）14:00～16:00

講師：藤田 純（福岡県臨床心理士会副会長 筑豊教育事務所スーパーバイザー
筑豊地区スクールカウンセラー）

座長：本郷秀和（不登校・ひきこもりサポートセンター長/本学人間社会学部教授）

テーマ：「いじめ」について考えよう～臨床心理士の視点

参加者：21名（うち田川市在住・在勤者2名）

講座概要：冒頭では本郷センター長より当日の担任のいじめ誤認による自殺新聞記事の紹介等から問題提起がなされたうえで講座が開始された。講師の藤田先生からは多くの資料を提供いただき、終始問いを投げかけられながら講座が展開された。前半では、先生の体験からいじめ理解の基本を振り返る機会となった。そして、後半ではいじめを招きやすい関わり方、いじめを生まない関わり方とたくさんの知見を得ることができる内容であった。多くの事例から関わり方について考えさせられ、参加者の子ども達への関わり方の類型なども自己分析する機会になった。また、子どもたちにかかる「ことば」の重要性についても印象に残った。質疑応答では、参加者からの管理されている学校や担任の子どもたちへの発言への印象や思いに対して、解釈できる状況や対応について丁寧に助言をいただいた。

講座風景：



福岡県立大学公開講座Ⅰ（第1回：10月30日実施） アンケート結果

1. 公開講座を知ったきっかけ（複数回答可）

- ①新聞（0名） ②市（町）政だより（0名） ③ポスター（0名） ④チラシ（3名）
⑤大学のホームページ（1名） ⑥知人の紹介（10名） ⑦職場での案内（1名）

2. 受講講座の印象

- ①大変満足（3名） ②おおむね満足（8名） ③普通（1名） ④やや不満（2名） ⑤不満足（0名）

3. 講座日程

- ①このままでよい（11名） ②わからない（2名） ③改善して欲しい（1名）

4. 今後の講座参加希望

- ①はい（11名） ②わからない（2名） ③いいえ（2名）

5. 今回の公開講座についての意見・感想

- Power Point の配布資料は抜粋ではなく全てほしかった（文字が見えにくい。小さすぎる。後で見れないものは資料となるのか？）。ゆっくりみたいので。全ての保護者・子どものスマホにアプリを入れたい、入れたらいいと思った。私もアナウンスしたいと思う。
- ひきこもりと自殺の関係をどう防ぐか etc~。
- ‘Kids’ Sign”というものを知らなかったので、現代の子ども達に必要なのかな。と思う反面、直接教員（大人）には言えない子が大人になった時に、大切なことを相談するときに、どうするのだろうか？その子が親になった時どうするのだろうか？と不安になりました。また、“Kids’ Sign”を使うからという名目でスマホを持つ子が増える⇒スマホの問題が起こる⇒学校での仕事が増えるのでは…と思いました。
- 提示していただく画面は全て資料にあげていただきたかった。
- ぜひ自分の学校や自治体で採用していただきたいと思いました。
- 企業コマースシャル感が強くて、あまり入ってこなかった。必要かどうかの検討を本日の話を聞いて当町でも参考にしたいとは思った。大人は早期発見出来れば OK、子どももそれで OK なのか？子ども達が健全なコミュニケーションがとれるアプリ、サイトの出現を願うばかり。 . . .
- 知らないことばかりでしたが、知らなければならぬことばかりでした。これから学習していきます。
- SNS によるいじめの通報システムは大変勉強になりました。まだ今は導入されていないが、いずれ導入されていけばいいと思いました。
- 詳細な分析、システムの必然性、納得することができました。導入するとした場合の費用を知りたかった。
- このようなサービスがあることを初めて知りました。学校に持ち帰り報告したいと思っています。

- アプリを使って、第三者通報を期待するといういじめの対応は、新たな発想だと思いました。アプリに限らず、「見て見ぬふりをしない」子どもを育てていくために、さまざまな工夫が必要だと感じました。
- いじめ匿名通報アプリ「kids sing」の事業の始まりをお聞きして、いじめ防止に一役かっ
ていて第三者の通報等もあり、「いじめや学校生活、担任への不満等」を含めて学校がつか
むことができているんだと思いました。
- 興味深いアプリの話ではあったが、導入等となると管理職または教育委員会への説明が先
の方がよかったのではないかな。
- とても為になるが組織の一人としては、委員会等でどうするか判断になってしまい、せ
っかくの講座が無駄になってしまいそうである。少しでも手を出していければと思う。
- 教育委員会等へのアピールかなとも思いましたが、勉強になる話も聞けました。ありが
とうご
ざいました。
- 取組みの内容については理解出来ましたが、お金がかかって1学校ではなかなか出来ない
内容はどうかと思いました。もっと学校に還元出来る内容の方が良かったです。

6. 今後に向けての公開講座に対する開催時期、テーマなどの要望

- 年度始め
- 夏休み、冬休みに1回ずつしていただけると助かります。
- 民間のフリースクールと行政・省庁との橋の継がりなどの展望など。
- 2年程前に発達障害についての講座がありました。現在、現場では、発達であろう生徒が
存在していますので、今後、発達障害についての理解と対応をしていただけたらいいと思
います。また、現在、虐待に関する件数が増加傾向にありますので、虐待についても良い
のではとも思います。よろしく願いいたします。
- 駐車場の案内を分かりやすくしていただきたいです。（入口がドコで、ドコが駐車場なの
かわからなかった）
- 不登校の原因で私自身が1番多いと感じている「母子分離不安又は愛着障害」をテーマに
していただきたいです。
- 不登校の子ども達の足跡。例えば、適応指導教室やフリースクールに登校していた子ども
達の進学・就職状況などが知りたいと思う。また、そこにつながる指導のあり方や方法を
教えてほしい。
- ひきこもり、不登校について
- 講座全部を広告（宣伝）に使うのが適切かどうか
- 不登校、長欠生徒対策、初期対応を知りたいです。

7. 勤務先または住まい

- ①田川市内（2名） ②田川郡内（0名） ③その他（13名：行橋市2名、豊前市1
名、みやこ町1名、嘉麻市3名、北九州市1名、福岡地区1名）

福岡県立大学公開講座Ⅰ（第2回：11月13日実施） アンケート結果

1. 公開講座を知ったきっかけ（複数回答可）

- ①新聞（0名） ②市（町）政だより（0名） ③ポスター（0名）④チラシ（3名）
⑤大学のホームページ（2名） ⑥知人の紹介（2名） ⑦職場での案内（8名）
⑧そのほか（2名）

2. 受講講座の印象

- ①大変満足（6名）②おおむね満足（7名）③普通（1名）④やや不満（0名）⑤不満足（0名）

3. 講座日程

- ①このままでよい（14名） ②わからない（1名） ③改善して欲しい（0名）

4. 今後の講座参加希望

- ①はい（15名） ②わからない（1名） ③いいえ（0名）

5. 今回の公開講座についての意見・感想

- ・いじめ問題に関する、法的なことについては、あまり目にする機会がなかったので、今回の講座で学ぶことができよかったです。
- ・SSWをしています。対応ケースの中には、謝罪をしたというけど、学校の対応はどうか、納得出来ないという声を聞くことがあります。学校も謝罪の場をきちんともった、それで終了ということがある。今日話を聞いてよく分かった気がします。私も専門職として学校に今日話をしていけるようにしたいと思います。（よく関わるケースにおいては、加害者側の本人やご家族に支援が必要なのがあると思っています。）ありがとうございました。参加出来てよかったです。
- ・とても勉強になりました。学校内の職員間でも「いじめ」に対する意識がまだ固く、高くないと感じます（自分も含めて）。ここで学んだことをどう職員に伝えることができるか、ですが、まずは自らの意識を振り返って言葉にしていきたいと思います。分かりやすく説明していただき、本当にありがとうございました。
- ・とても勉強になった！！いじめはどこにでもありうる、それを発見したらマイナス評価になる体質を変えないと見て見ぬ振りをするようになると思う。教職員の中でもいじめと近い様なことが行われている相談を受けることがある。大人社会、家族間で児童に手本となる人間関係の築き方が何かあれば・・・
- ・H25年以降のいじめの公表数が増加しているのを見ると「いじめ防止対策推進法」が何らかの効力が発揮しているのではないかと感じている。いじめにおける謝罪は解決にはならないと思う。
- ・法的な事までになる様なことは今までにないが、学校としての対応によって、事態が随分変わってくる事が理解出来た。

- いじめの原因解明をしないと再発する。加害側の原因を探っていかななくてはいけないということを強く感じました。
- いじめの対応について法的な見解からのアドバイスは大変参考になりました。
- いじめの法的な責任等、今回整理して教えていただけたので、大変勉強になりました。子供の変化に敏感に気づく事の出来る力を、日々の子供達との関わりの中で、磨いていきたいと思います。
- 「謝罪」は大切な行程ではあると思いますが、ゴールではないという認識です。真のゴールは被害生徒が不安感なく元の生活が出来る様になる事だと思うので、謝罪後も一定期間は注意して見守る体制を作るべきだと思います。また、田中先生がおっしゃる通り、いじめはいつでもどこでも誰にでも起きうるものとして認識すべきだと思います。いじめの認知件数はむしろその学校の積極的な対応の表れとして、先生のみならず保護者や社会が認識していく必要があると考えます。
- いじめの恐れがある場合に、見過ごしてしまっている所が、自分にはあるのではないかと反省させられました。おかしい子供同士の反応に対して豊かな感性を持って組織的に対応していることの大切さを痛感しました。
- 弁護士の活用等とても参考になった。加害者の子供に気づかせるためには、被害者の親と一緒に闘う姿勢も必要だと私は感じる。親同士の対峙も時には必要である。子供は親を見えます。その姿は心に残るものだと。

6. 今後に向けての公開講座に対する開催時期、テーマなどの要望

- 第一回に続き、第二回目の参加となります。講座名のサブタイトルが、～サイン・気付き・初期介入～となっていたため、参加したのですが、前回、今回と内容が管理職向きだったような気がします。そのため、案内に具体的にどのような内容なのか記入してもらいたいです。
- 不登校や長欠生徒に対しても、初期介入が大切と聞いています。そのことを学びたいです。
- 定期的に公開講座を行って欲しいと思います。
- いじめについて、当人、加害者も含めての議論が聞きたい！！
- 不登校というよりは、ゲームに依存して引きこもっている中学生の対応に苦慮しています。どういう対応が有力なのか、悩んでいます。

7. 勤務先または住まい

①田川市内（2名） ②田川郡内（0名） ③その他（14名：豊前市1名、行橋市1名、みやこ町1名、嘉麻市2名、北九州市2名、福岡市1名、水巻1名、粕屋1名）

福岡県立大学公開講座Ⅰ（第3回：12月11日実施） アンケート結果

1. 公開講座を知ったきっかけ（複数回答可）

- ①新聞（0名） ②市（町）政だより（1名） ③ポスター（0名）④チラシ（3名）
⑤大学のホームページ（1名） ⑥知人の紹介（4名） ⑦職場での案内（12名）
⑧そのほか（0名）

2. 受講講座の印象

- ①大変満足（3名）②おおむね満足（11名）③普通（1名）④やや不満（1名）⑤不満足（0名）

3. 講座日程

- ①このままでよい（12名） ②わからない（5名） ③改善して欲しい（1名）

4. 今後の講座参加希望

- ①はい（16名） ②わからない（2名） ③いいえ（0名）

5. 今回の公開講座についての意見・感想

- ・三回の講座を受講して多くの情報を頂き大変勉強になりました。只、この講座はインプット、この情報を活用して不登校・いじめの改善に何をすべきなのかが今一つ足りない気がしました。ぜひ実践に繋がる内容を示してくださる講座があってくるとよいのではないかと思います。
- ・いじめの認知について改めて考えさせられ、私たちがきちんと認知していく事が、いじめが少なくなるなと思いました。具体的なタイプ型等が丁寧に解説されていて参考になりました。
- ・藤田先生のお話をもっと多くの教職員の方に聞いて欲しいと感じました。不登校の相談等を多く受けていますが、いじめからの不登校、先生の言葉掛け、部活の顧問の対応等から不登校へとなった子ども達と接していると、教職員の意識が少しでも変わると傷つく子どもが減るのではと感じました。
- ・現在、公立中の「不登校・長欠対策教員」として（今年度から）勤め出し、分からない事が多く、とても勉強になりました。（今春3月までは保健体育教諭として勤務）
- ・資料にブランクを設けるのでしたら、書き込める時間的余裕を取っていただきたい。
- ・私の受け取り方が悪いかもしれませんが、「頑張らせようとする事」=悪、いじめのよように思ってしまったが、その中で忍耐力をつけさせる事と相反しているように思います。学校で理想を教える事は大切ですが、行き過ぎると学校を出た後の社会とのギャップについていけない事もあると思います。「出来ない側、苦手な側の立場に立って考える事」も大切ですが、出来るように努力させる事や苦手を克服しようとする強さを身につけさせる事も必要だと思います。

- 「理想と現実のギャップ」を感じたり、なぜ今我慢する事が出来ない人がふえているのかを考えた時に、今の権利ばかり主張しがちな社会に問題があると感じますので、申し訳ありませんが、今回の第三回の講座だけは納得、理解出来ない事が多くありました。
- どの学校、どの子にもいじめが起こりうる問題ではあるが、多くの事例で普段思いもしない様な事もあり、改めて自分自身に考えさせられる事があった。又、教師のあり方、子ども達の関わりについてもここ何年かで社会的状況も大きく変わる事で時代、時代にあった指導、関わりをしていかなくてはならない、子ども達は何も変わってなくて時代が変わり、昔ではない子どもが生まれてくる事を知っていかなくてはならないと感じた。
- いじめの捉え方の意識が変わりました。いじめる側といじめられる側の双方に伝えていかないといけないと思いました。「生きること」+「自己磨きの仕方」、どう伝えていくかの課題をいただきました。
- ポイントを絞ってほしい。現場にすぐに役立つような内容を望みます。
- 臨床心理士の視点からいじめと不登校の対応に関して気付き、対応自覚する立場から深く対処法について学ぶ。我々が対処法につき深く掘り下げ今後生きていく上で検討、対処法、まず現状の把握から「いじめ」に対して先生が自覚されて、県下でもより実態が反映される様に今後はより研修等で深めていく事が必要であろう。少子高齢化の現状に於けるいじめの初期対応の重要性を把握して活かしていく事が大切。知識のみではなく、実践的活動の必要性を知る。
- 様々な事例が挙げられていましたが、個々の対応についてもっと討議が出来ればよかったと思う。
- 「いじめと不登校」でしたが、「いじめ」の比重が大きく、それはそれでよい学びになりました。又、職場での「いじめ」についての研修は今年度なかったので、機会があれば来年やってもらいたいと思いました。近年の不登校は「いじめ＝」よりも「環境不適應」の面も多くあり、その領域のお話も聞きたかった。
- 自分の言動が、子どもを苦しめる事にも繋がると考えると、怖くて何も出来なくなってしまふ感覚も出てきてしまいますが、子どもでも大人でも相手の事を大事に思い、考え、行動していくことで、何かしらの思いは伝わっていくと思うので、まずは、自分自身の人権感覚を磨いていく事から始めていきたいと思います。

6. 今後に向けての公開講座に対する開催時期、テーマなどの要望

- 不登校（いじめ以外でも）の保護者も勉強されている方も多く分かっているが、良い方向への接触、対応をしようと思うが、子どもが（中々受け入れず・・・親への甘えもあるのでしょう）反抗したり、の状態への助言等も学びたいです。
- 「ごく初期段階のいじめ」のいじめる側といじめられた側の双方に対して、教育者が取った参考事例から学びたいと思いました。
- 不登校支援の具体的方法、不登校生徒への進路指導、不登校生徒への学習支援のあり方
- 家庭教育、親子関係を円滑にするコミュニケーション
- 今年度は不登校・ひきこもりのサポートセンター長の本郷先生座長による「いじめと不登校」に関するシンポジウムで参加者の熱心なる研修効果に期待する。又、今後は防災等の面からも市民に対し県大独自の講演も検討して欲しい。

- 不登校の子に対して、学校として出来る最低限の支援方法や関係機関との連携の仕方等教えていただきたいです。又、SSWの話も聞いてみたいです。
- 保護者（問題ある児童・生徒の保護者）との関わり方。
- 発達障害児への接し方・保護者への対応

7. 勤務先または住まい

①田川市内（4名） ②田川郡内（0名） ③その他（15名：みやこ町1名、嘉麻市2名、北九州市2名、福岡市2名、久留米市1名、糟屋郡1名、不明6名）

《アンケート結果を受けて》

参加いただき回答いただきました皆さまありがとうございました。いただきましたご意見やご感想をもとに、次年度も、子どもたちのために、保護者のために、関係者のために、地域のために、有意義な時間を提供できるように企画していきたいと思えます。今後とも、当センターへのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。